

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
5	小野 泰正（6）	<p>1. 地域災害拠点病院である富士市立中央病院の風水害対策について</p> <p>近年の線状降水帯をはじめとする豪雨災害は、この富士市でも相当な被害をもたらしたことは記憶に新しいですが、地域災害拠点病院として、富士市立中央病院では、どんなときでも地域医療の要として機能するよう努めていると考えます。</p> <p>そこで、令和5年2月28日に厚労省から「災害指定病院指定要件の一部改正について」が出されました。その中には、「浸水想定区域（洪水・雨水出水・高潮）又は津波災害警戒区域に所在する場合は、風水害が生じた際の被災を軽減するため、止水板等の設置による止水対策や自家発電機等の高所移設、排水ポンプ設置等による浸水対策を講じること。」と記述されています。</p> <p>富士市立中央病院の場所は、浸水被害想定が1メートルの区域であり、最大被害想定が1メートルから3メートルまであります。安全・安心でどんなときでも信頼できる医療機関として役目を果たす中央病院であることが必要です。</p> <p>そこで、以下質問いたします。</p> <p>(1) 現在の富士市立中央病院において、風水害が生じた際の被災を軽減するための対策はどのような状況でしょうか。</p> <p>(2) 富士市立中央病院が地域災害拠点病院として風水害が発生した場合でも、安全・安心でどんなときでも信頼できる医療機関であるための最低限必要な機能は何でしょうか。</p> <p>(3) 今後の風水害が生じた際の被災を軽減するため、どのような計画をお考えでしょうか。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
6	新家 大輔（9）	<p>1. 自転車を活用した地域活性化の取組について</p> <p>本年5月に、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したことを受け、移動や生活における行動制限がなくなり、新富士駅前では多くの外国人観光客の方々を見かけるようになりました。</p> <p>まだ、全ての面においてコロナ禍前の状況に戻ったとは言えないかもしれませんが、観光や人々の交流という面では、コロナ禍前より活性化しているようにも思えます。</p> <p>そんな中、私は、富士市やジヤトコ株式会社を中心となって実行委員会を組織して行う、新富士駅と富士駅を自転車をつなぐコネクタサイクルとサイクルトレインの社会実験を体験しました。</p> <p>関係者からは、今回は、本市へのサイクルツーリズム環境創出の観点からの社会実験であり、コネクタサイクルは想定以上に利用者も多く、実現を要望する声もあったと聞き及んでいます。</p> <p>こうした事業を積極的に行い、本市の観光振興につながる施策につなげていくことを切望します。</p> <p>社会実験の総括はこれからだと思いますが、今回の実験と、これまでの取組を踏まえて、以下質問いたします。</p> <p>(1) 今回の社会実験実施の経緯と目的はどのようなものだったのか。</p> <p>(2) サイクルツーリズムによる誘客には、外国人観光客の取り込みが重要と考えるが、富士市サイクルステーションにおける外国人観光客の利用状況はいかがか。</p> <p>(3) サイクルツーリズム環境の創出や自転車による地域活性化には、レバンテフジ静岡との連携が不可欠と考えるが、これまでの連携実績と今後想定される事業はどのようなものがあるか。</p> <p>(4) サイクルロードレース大会は、全国から多くの観客が集まり、市内に高い経済波及効果があったと思うが、レースやイベントなどの今後の開催方針はいかがか。</p> <p>2. 富士市スポーツコミッションの設置について</p> <p>今年の夏は、富士川河川敷でも、コロナ禍前と同様に、サッカーや野球、アルティメットなどの大きな大会が開催されており、スポーツに熱中する選手や観客を目にすることができ、大変うれしく思うとともに、この喜びをもっと多くの人たちと共有したいと強く思いました。</p> <p>本市には、富士山を望みながらスポーツに取り組むことができる素晴らしい環境があり、現在建設中の総合体育館や再整備を進める富士川河川敷など、ハード面の充実も進められております。</p> <p>このような環境下でスポーツ合宿や大会が行われれば、国内からの参加はもちろん、外国からの参加も期待できると思います。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
6	新家 大輔（9）	<p>フライングディスクのアルティメット競技においては、富士市ホテル旅館業組合などの御尽力により、富士市がアルティメットの聖地と呼ばれるようになり、大きな大会が年に数回開催されるなど、既に実績のある事業もあります。</p> <p>今後、総合体育館の完成や、富士川左岸緑地の運動施設の供用開始が間近に迫り、スポーツ交流の拡大が期待できるこのタイミングを逃すことなく、スポーツイベントやスポーツ合宿などの誘致、既存のスポーツイベントの継続的な開催を行うスポーツコミッションの整備が必要だと考え、以下質問いたします。</p> <p>(1) 本市で開催されているアルティメット大会をどのように評価しているか。</p> <p>(2) スポーツコミッションは、地域資源を生かし、スポーツイベントの開催などを通じたまちづくりや地域活性化を推進する組織として、周辺自治体でも設置が進められているが、それらの動きをどう捉えているか。</p> <p>(3) 本市にスポーツコミッション設置の考えはあるか。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
7	植松 光徳（8）	<p>1. 富士市におけるZ世代への地域定着とキャリア形成の支援策について</p> <p>人口減少と少子高齢化の急速な進行において、富士市の経済産業を担う人材の確保は重要な課題です。特に富士市の将来を担う10代から20代の若い世代、いわゆるZ世代がこの地域に定住または移住し、充実したキャリアを築くことができる環境づくり・居場所づくりが必要です。</p> <p>そのような中、新型コロナウイルス感染症の影響により、彼らの就職活動は、かつての私たちの世代と大きく様変わりしました。オンライン面接の普及やスカウト型採用など、若者の価値観は多様化し、それぞれの物差しで企業を測る売り手市場の傾向が強まっています。選ばれる側に回った富士市の企業は、どのようにZ世代と向き合えばよいのか試されています。</p> <p>そこで、Z世代の地元への定着と、彼らのキャリア形成に向けた移住・就職支援に関する富士市の取組について、以下質問いたします。</p> <p>(1) Z世代の人口流出入状況をどのように把握し、現状分析をどのように行っているか。</p> <p>(2) Z世代の定住・移住促進、またキャリア形成のための支援策など、具体的にどのような施策を行っているか。</p> <p>(3) 人材アシストU-30で中小企業が直接、奨学金機構への返済を立て替える場合も事業対象としてはいかがか。</p> <p>2. 富士市における看護師確保について</p> <p>看護師はチーム医療の中で患者のケア、医師や多職種との連携において重要な役割を果たします。全国的に医師・医療従事者不足が問題となっている中、当市においても看護師が足りないといった声が各医療機関・介護事業所から上がっています。看護師不足により市民に提供する医療の質の低下が懸念されます。</p> <p>この問題解決のためには、看護師の確保はもちろんですが、専門的な看護師教育の充実やプログラムの整備が求められます。そこで、以下質問いたします。</p> <p>(1) 富士市として看護師の充足状況をどのように捉え、確保に向けてどのような対策を行っているか。</p> <p>(2) 富士市立中央病院における看護師確保状況と今後の見通しについて伺う。</p> <p>(3) 富士市立中央病院を退職する看護師の動向はどのように把握しているか。また、それに対する評価をどのように行っているか。</p> <p>(4) 富士市立看護専門学校卒業生の就職先や、現在の就職状況の実態把握はどのように行っているか。</p> <p>(5) 教員の勤務環境実態や充足状況についてはいかがか。</p> <p>(6) 看護教育の質の向上や過密なカリキュラムを緩和するため、看護専門学校の4年制化が必要と考えるがいかがか。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
8	伊東 美加（7）	<p>1. 市職員のメンタルヘルス対策と病気休職後の職場復帰支援について</p> <p>令和2年度に総務省がメンタルヘルス対策に係るアンケート調査を実施いたしました。それによりますと、市ではメンタルヘルス不調による休務者数は、職員10万人当たり2447人、男女別では男性が若干多い傾向、役職は係員、つまり役職についていない方が多いという結果が出ています。休職に至った主な理由について上位3つを選択して単純集計した結果としては、上司、同僚、部下などの職場の対人関係が約60%、困難事案などの業務内容が約42%で、本人の性格が30%と続きます。令和2年度に休務した者の令和3年4月1日現在の状況としては、半数以上の方が復帰を果たしていますが、残念ながら12.5%の方は退職されています。これらの結果を踏まえ、本市の状況について、以下伺います。</p> <p>(1) 令和2年から現在までに病気休暇・休職をした職員のうち、メンタル不調を理由とする職員の年次ごとの実人数と、この間にメンタル不調による病気休暇・休職から職場復帰した職員の状況について伺います。</p> <p>(2) 職員のメンタル不調の予防・早期発見の取組の実施状況について伺います。</p> <p>(3) メンタル不調による病気休暇・休職取得から職場復帰に至るまでの通常のプロセスについて伺います。</p> <p>(4) 職場復帰に至るまでの一連のプロセスの中での課題について伺います。</p> <p>(5) 国の調査では、休職に至った主な理由の第1位が「上司、同僚、部下などの職場の対人関係」となっています。こうした理由で休職している場合、職場復帰に向けて何らかの配慮はあるのでしょうか。</p> <p>(6) 休職者が職場復帰を果たし、安定した勤務ができるようになるまでの過程において、所属長の果たす役割は大きいですが、所属長にとっても過重な負担となっています。そこで、健康相談室に専従の職員を配置し、職員の休職中に発生する様々な悩み事や職場復帰プログラムなどへのアドバイスができるような体制を整えることはできないでしょうか。</p> <p>(7) 職場環境改善の一環としての、メンタルヘルスに関する職員の意識向上のための取組について伺います。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
9	佐野 智昭（18）	<p>1. SDGsの進捗状況と今後の取組について</p> <p>SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年（平成27年）9月に開催された国連持続可能な開発サミットで、国連加盟国193か国の全会一致で採択された世界共通の目標であり、誰一人取り残されない持続可能で多様性と包摂性のある社会を目指すものである。17のゴール、169のターゲット、232の指標で構成され、2016年（平成28年）から2030年（令和12年）までの15年間を対象期間としている。</p> <p>我が国においては、2016年（平成28年）5月にSDGs推進本部が設置され、同年12月には日本の取組の羅針盤とも言えるSDGs実施指針が決定され、日本の優先課題や地方自治体を含めた各主体の役割も示され、2019年（令和元年）12月に改訂されている。</p> <p>また2018年（平成30年）には、内閣府において、SDGsの達成に向けた取組を積極的に進める自治体を公募し、経済・社会・環境の三側面の統合的取組による新たな価値を創造する提案を行った自治体をSDGs未来都市として選定する制度が設けられた。そして、SDGs未来都市に選定された都市は、SDGs未来都市計画を策定することとされている。また、地方創生の文脈において、自治体がSDGsを推進していく上でのモデルとなり、先導的な取組となる事業を自治体SDGsモデル事業として選出し、補助金が交付されている。</p> <p>本市は、2020年（令和2年）7月にSDGs未来都市に選定され、同年9月に富士市SDGs未来都市計画を策定し、2023年（令和5年）2月には計画期間を2023年（令和5年）から2025年（令和7年）とする富士市第2期SDGs未来都市計画（以下、当初の計画も含め「本計画」という。）を策定した。</p> <p>本計画は、本市独自の課題に応じたSDGsの重点項目を選定し、本市の特徴的な施策・事業を位置づけるなど、本市ならではの計画となっている。また、2022年（令和4年）3月には、計画に定められている本市のSDGs推進の基盤となる富士市SDGs共想・共創プラットフォームが発足し、地域活性化と新しい価値の創出を図り、持続可能な富士市をつくるための取組が進められている。</p> <p>さらに、第六次富士市総合計画においては、めざす都市像の実現に向けた基本姿勢としてSDGsの理念が導入され、また、本市の地方創生の方向性を定める第2期富士市まち・ひと・しごと創生総合戦略や各種個別計画についても、SDGsの理念や視点などが示されており、全庁挙げて取り組んでいくよう方向づけがされ、推進されている。</p> <p>そのような中、本年（2023年）は、SDGsの達成期限である2030年までの折り返しの年に当たり、残すところ7年と迫っていることから、本市においても、なお一層、SDGs</p>	市長 教育長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
9	佐野 智昭（18）	<p>に取り組むことの重要性や意義を浸透させ、2030年における目標達成、本計画の実現に向けて、市民・事業者・団体等とのパートナーシップによるオール富士市での取組を推進していくことが必要であると考え、以下質問する。</p> <p>(1) 本市のSDGsの進捗状況について、以下を伺う。</p> <p>① 全国の自治体の中での本市のSDGsの達成状況はどうか。</p> <p>② 本計画に定めている2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲットに対するKPI（重要業績評価指標）の達成状況はどうか。</p> <p>(2) 市内でのより積極的な取組を求め、以下を伺う。</p> <p>① 本計画には、各種個別計画にSDGsの理念や視点、取組など必要な要素を反映すると示されているが、具体的にどのように反映されているか。</p> <p>② SDGsの理念や経済・社会・環境の三側面、バックキャスト、相互の相乗効果やトレードオフなどの視点を踏まえ、新たに創出した事業、大きく変革した事業はあるか。</p> <p>③ 本計画に示されている自治体SDGsの推進に資する取組の環境側面、富士山及び駿河湾の自然環境の保全のうちの富士海岸の環境美化については、より具体的な取組が必要であると考えがどうか。</p> <p>④ SDGsの根本的な思想は、我が国、我が地域がよければよいという発想ではなく、貧困、不平等・格差、気候変動による影響など、世界の様々な問題を根本的に解決し、全ての人たちにとってよりよい世界をつくることであるということを踏まえ、世界の人々が置かれている現状の打開に向けた取組を実施する考えはあるか。</p> <p>(3) 富士市SDGs共想・共創プラットフォーム（以下、「プラットフォーム」という。）のより一層の推進を求め、以下を伺う。</p> <p>① プラットフォームパートナーを構成する、行動宣言者数、推進企業等登録数、SDGs応援団員数は、見込みどおりに増えているか。</p> <p>② プロジェクト登録数、F U J I 3 Sプロジェクトエッグ認定数、F U J I 3 Sプロジェクト認定数は、見込みどおりに増えているか。</p> <p>③ 現在までのプロジェクト及びF U J I 3 Sプロジェクトエッグの実施効果を、どのように捉えているか。</p> <p>④ プラットフォームの仕組みをより分かりやすく周知していく必要があると考えがどうか。</p> <p>(4) 市民等へのより確実なSDGsの周知、浸透を求め、以下を伺う。</p> <p>① SDGsに対して一人でも多くの市民が関心を持ち、自分事として考えていただくために、今後どのような周</p>	市長 教育長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
9	佐野 智昭（18）	<p>知・啓発のための取組を行っていくのか。</p> <p>② 次世代を担う子供たちが複雑な社会問題に向き合っていけるように、今後どのようなSDGsについての学びの取組を行っていくのか。</p>	<p>市長 教育長 及び 担当部長</p>